

学校林を活用した地域交流の実践について

宮城県小牛田農林高等学校 農業技術科

○桂島 章太 庄司 正博 菅原 武浩
本田 頌 佐藤 瑛彦 桜井 佑大

研究の動機

本校の学校林は約10km余り離れた加護坊山の南斜面に93haあります。100年近くの原生林をはじめ、80年余りのスギやヒノキがあり、全国でも有数の美林です。

そのすばらしい学校林を地域の方々に開放し、活用してもらいたいと思い、平成11年度から先輩達が地域の町と連携を図り、地域交流の実践に取り組みました。

活動経過

平成11年度には小牛田町の公民館と共催で山の恵を利用した体験実習と炭窯を活用した炭焼き体験を実施しました。平成12年度には、実施回数も増え、学校林を訪れる人々も多くなりました。13年度・14年度には、遠田郡四町（小牛田町、南郷町、田尻町、涌谷町）と合同で「自然散策会」の実施や、涌谷町の小学生を対象に宿泊施設を利用した通学合宿など新しい行事も行ないました。

4年間の評価と課題

- ①地域の人々に学校林のすばらしさを伝えることができた。
- ②多くの方々と交流を深めることができた。
- ③幅広い年代の方から利用してもらうためには、学校林の整備が必要である。
- ④行事によっては参加人数が減少してきた。
- ⑤充実した行事を行なうために、より多くの関係機関と連携が必要である。

以上のような5点があげられました。

研究目標

そこで私達は先輩達の課題を基に次のような研究目標を設定しました。

- ①学校林整備の計画的な推進
- ②学校林を活用した行事の工夫・改善
- ③関係機関との連携の強化

実施計画

- ①学校林に植林をする。
- ②間伐材で丸太椅子をつくる。
- ③関係機関と連携して次のような開放講座を実施する。
 - 1) 山の恵みを利用した収穫体験
 - 2) 豊かな森林を活用した里山体験
 - 3) 施設を利用した宿泊体験

以上3点を実施することにしました。

実践1 学校林に植林

学校林は加護坊山へ上がる道路に面しており、頂上付近は牧草地と雑木林です。その雑木林は笹やつる、つたが多くあるため景観があまり良くありませんでした。そこで、昨年に雑木林を整備し、今年の春に3年前から育ててきた湿地に強いキハダの苗200本を本校生徒で植林しました。秋には保育管理として刈り払いも実施しました。

実践1 学校林に植林
雑木林の整備
キハダの苗 200本
↓
植林実習
保育管理 → 刈り払い



実践2 間伐材を利用した丸太椅子作り

学校林には野外で使う椅子が少なく開放講座の時など不便でした。そこで、冬に杉林から間伐した桜の木を使い丸太椅子を作ることにしました。桜は杉より丈夫で長持ちすると考えたからです。春、早速山に入り原木の玉切りから始まり、搬出、寸法取り、足作り、磨き、塗装等と行い10月に完成しました。完成した丸太椅子は学校祭で展示し、多くの皆様から講評でした。これから行われる親子炭焼き教室で使用していきます。

実践2 間伐材を利用した丸太椅子作り
4月 原木(桜)の玉切り・搬出
5月 寸法取り
6月 足作り
7月 磨き方
9月 塗装
10月 完成 学校祭展示
2月14日 → 親子炭焼き教室で使用



実践3 関係機関との連携の強化

(1) 山の恵みを利用した収穫体験

その1 里山体験「シイタケ」コース

小牛田町公民館と一緒に住民の方々12名を対象に実施しました。3月に学校林の道路を使い植菌作業を行いました。天候も良く参加した皆さんと楽しく植菌作業することができました。4月にはシイタケ狩りを行い、皆さん嬉しそうに原木からシイタケを収穫していました。その日は天候も良かったので自然散策も行いました。



その2 親子森林体験隊 タケノコ掘り

5月、小牛田町公民館に新たに牛飼児童館が加わり、今回は合わせて親子29名を対象に実施しました。はじめての子供達が多く、掘り上げるのに一苦労していましたが、たけのこを掘り上げたときは歓声をあげながらとても満足そうな表情をしていました。タケノコ掘りを終えてから、自然散策を行い、里山に自生する植物を観察しました。



その3 女性セミナー

10月、はじめての行事として涌谷町公民館と合同で女性の方15名を対象に草木染めを2日間実施しました。染色には学校林に自生しているキハダの樹皮やつる性の植物、「あかね」と呼ばれる草の根を使いました。皆さん、染色ははじめてだったので真剣に取り組んでいました。多くの方からは「大変勉強になった。また染色をやってみたい。皆さんと楽しく過ごせて嬉しいです。」などの声が多く聞かれました。



(2) 豊かな森林を活用した里山体験

その1 四町合同自然散策会

5月、新緑の美しい時期に、遠田四町の公民館と一緒に一般の方々60名を対象に実施しました。時より小雨が降る中、5班に分かれ美しい学校林を見て回りました。参加した人の中には山野草や樹木に詳しい方がおり、私達も教えていただきました。昼食後は参加者全員で記念撮影を行い、その後でエビネの記念定植とタケノコ掘りを実施しました。皆さん互いに協力しあいながら和やかな雰囲気で行うことができました。多くの方から「楽しかったです。また来年もきたい。山はいいですね。気持ちが落ち着きます。」などの話をさせていただきました。



その2 里山で遊ぶ

6月、涌谷町公民館と合同で親子12名を対象に「自然散策会」を実施しました。新しく取り入れた樹木ウォッチングも好評で、皆さん和気藹々と楽しく過ごしました。子供達は自然の素晴らしさを満喫していたようです。



9月には小牛田町公民館・牛飼児童館の親子22名を対象に「秋の里山で遊ぼう」を実施しました。山で栗やどんぐりなどを拾いながら自然とふれあい、子供達は大変喜んでいました。

10月にも小牛田町の公民館・児童館の子供達55名を対象に「秋の里山を探検しよう」を実施しました。10班に分かれ森林を歩きながら、木の実やキノコを探しながら散策をしました。9月、10月のアンケートから「栗拾いや自然探検が楽しかった」という結果が得られ、私たちにとっても励みになりました。



(3) 施設を利用した宿泊体験

6月、涌谷町公民館と一緒に小学生高学年の21名を対象に実施しました。杜鵑寮に宿泊しながら、社会生活を営むうえで必要な基本的な生活習慣を身に付けるためです。班毎に分かれて掃除から食事の準備まで、身の回りのことは全部自分達で行ないます。今年は夕食後に新しい企画として、学校林の間伐材を利用した壁掛けを作りました。子供たちからは、「少し大変だったけど、楽しかった。面白かった。壁掛けが上手にできた」などの声がありました。



まとめ

- ① みんなと協力して植林をしたり、丸太椅子を作ることができた。
- ② 遠田四町の人々とより一層世代間交流を深めることができた。
- ③ 参加した方々に心の安らぎの場として利用してもらうことができた。
- ④ 行事を工夫したことで、参加者が増えた。
- ⑤ 関係機関と連携をして、充実した開放講座を実施することができた。

このような継続的な活動が高く評価され今年の7月に首相官邸において緑化推進運動功労者内閣総理大臣賞をいただくことができました。そして11月には小牛田町からも教育文化功労者として表彰されました。



平成15年 緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰記念 平成15年7月15日 首相官邸

今後の課題

- ①学校林整備の継続的な実施
- ②幅広い地域交流活動の実践
- ③学校林を活用した地域一体型の森林保全事業の推進

以上の3点があげられます。

これからも学校林を有効に活用し、地域交流を深めて豊かな心を育み、潤いのある生活を目指して頑張っていきます。